

# 読売俳壇

## 矢島 渚男 選

桜散る何をそんなに伝えたい

【評】桜が人間に何かを伝えたいのか、こんなことを考えること自体が変わっていて面白い。そう考えてみると、何かを伝えたくて散っているのかも知れないように感じられてくる。

思ひ出せぬ暗証番号返返る

【評】老いるにつれ、こんなことが起きる。何の暗証番号かは分からないが最初に間違えると、焦ってどうしようもない事態ですね。赤ちゃんの誕生を待つ四月

川越市 福田 愛子

【評】お孫さんが生まれるのか。予定日は四月。漸く待っていた月に入った。今度は安産が心配。大丈夫。春好む大空襲の語り部も

東久留米市 飯山徳次郎

崩落の憂に二日の月芽ゆる

珠洲市 竹沢平和吉

雨のあと猫の鈴音春の闇

栃木県 あらみひとし

戦なきゴム飛行機や春の夕

三郷市 村山 邦保  
大和市 今井 文雄  
千葉市 森田千代子  
千歳市 鶴谷 雪子

## 高野ムツオ 選

白梅や夕日の色に染まらずに

【評】ひっそりとした谷間の白梅が目につく。夕日は山の向こうに落ちるが迫るが、梅の白さはなおさわやかさを残している。

畑を打つ汚染土削ぎし故郷の

【評】福島原発事故で汚染された畑。表土を削ぎとって新たに土壌を作り耕す。不安はなおつきまとうが、故郷の再生に力を尽くす。倒置法が、土地に生きる思いを強く伝える。畑打やいつも近くに仏国土

京田辺市 加藤 草児

【評】父祖伝来の畑の耕し。どこにでも仏が住んでいるのは、父の教えなのであろう。耕すことが理想郷と信じ、今年も耕しに精を出す。復員の父を迎へに春の雲

福島市 引地こうじ

傘寿とて夢に向かうや螢鳥賊

本庄市 堀口ハル子

朧夜や机の上の万華鏡

京都市 武本 保彦

牧牛の遠目に咄囁春の雲

芦屋市 田中 俊  
加古川市 東田 強  
北上市 佐々木清志  
東京都 望月 清彦

## 正木ゆう子 選

ふらふらの子は何となく天を知る

【評】仰げば天のあることを、人はいつ知るのだろうか。自分のことは覚えていない。いつの間にか空はあった。一人でブランコが漕ぎ、ものを思うようになつて、空を見上げた。さみだりのキク科フキ属の薔

秋田市 進藤 利文

【評】他の植物に置き換えても、同様の句は出来るし、既にあるかも知れない。しかし露の露だからこいい。上五がさりげなく生きている。踏青や重力といふ勝れ物

横浜前島 康樹

【評】重力とは、地球と地球上の物の間に働く力、ださうである。自転による遠心力と引力の合わさったものだから。無ければどうなる。鳥雲に知恵あるものを先に立て

東京都 大武美和子

まじり合ふ春の匂いを雨に聴く

鎌倉市 中江 優子

相撲技綱打見たり百歳に

東京都 市村弥栄子

一駅は意外に近し夕桜

仙台市 鎌田 魁  
鹿沼市 椎名 貴寿  
高槻市 村松 謙  
八王子市 梅沢 春雄

## 小澤 實 選

チンパンジー縦に手打つ花の屋

【評】「縦に手を打つ」がいかにもチンパンジーらしい動きである。猿ながら花の盛りを楽しんでるかに見えるところが、まずはあなたかな日差がうれしかったのだろう。自転車を押して帰るや春夕焼

前橋市 山本 亨

【評】自転車に乗ってではなく、押して帰るとは、何か大きく気持が動いたのであろう。取り合わされた春夕焼から悪いことではなさそうだが。春一番雀がつんのめつて飛ぶ

甲府市 村田 一広

【評】春一番の強い風に逆らって、雀が飛んでいる。「つんのめつて」という描写が、その雀の必死の飛翔をうまく伝えていてよかった。蓬餅二つ呉れたり泣きやめば

伊勢市 藤田ゆきまら

軽トラの椅子の堅しや春時雨

小諸市 藤 雪陽

名面座にかすかな野花の屋

川口市 高橋まさお

桜海老真白き飯の見えぬまで

茅ヶ崎市 古田 哲弥  
国分寺市 野々村澄夫  
若草や白の新品スニーカー  
柏市 小畑 昌司  
スカイツリーの天辺見えず春の雨  
東京都 長嶋 佐渡

## 枝しおり折

高野公彦著『歌の魅力の源泉を汲む』わが意中の歌人たち』正岡子規から坂井修一まで18人を考察した評論集。歌人たちが切り開いた世界が立体的に迫ってくる。(終書房、3080円)

波克彦歌集『新世紀』歌誌「歩道」編集人を務める歌人の第2歌集。国内外で過した多忙な日々を、日記をつけるように詠み続けてきた。△アマガンの街には春の遠からん爆撃に崩れ地震に崩れて▽ (KADOKAWA、2860円)  
三石知左子句集『小さきもの』医療センター院長で小児科医でもある俳人の第1句集。医療現場で働く日々を生きたと描写する。△手袋をはめたる指の語りだす▽ (朔出版、2750円)

◆第23回俳句四季大賞 小澤實句集  
◆第24回俳句四季大賞 寺井谷子句集  
◆第24回現代俳句大賞 寺井谷子句集



題字デザイン・イラスト 福田美蘭